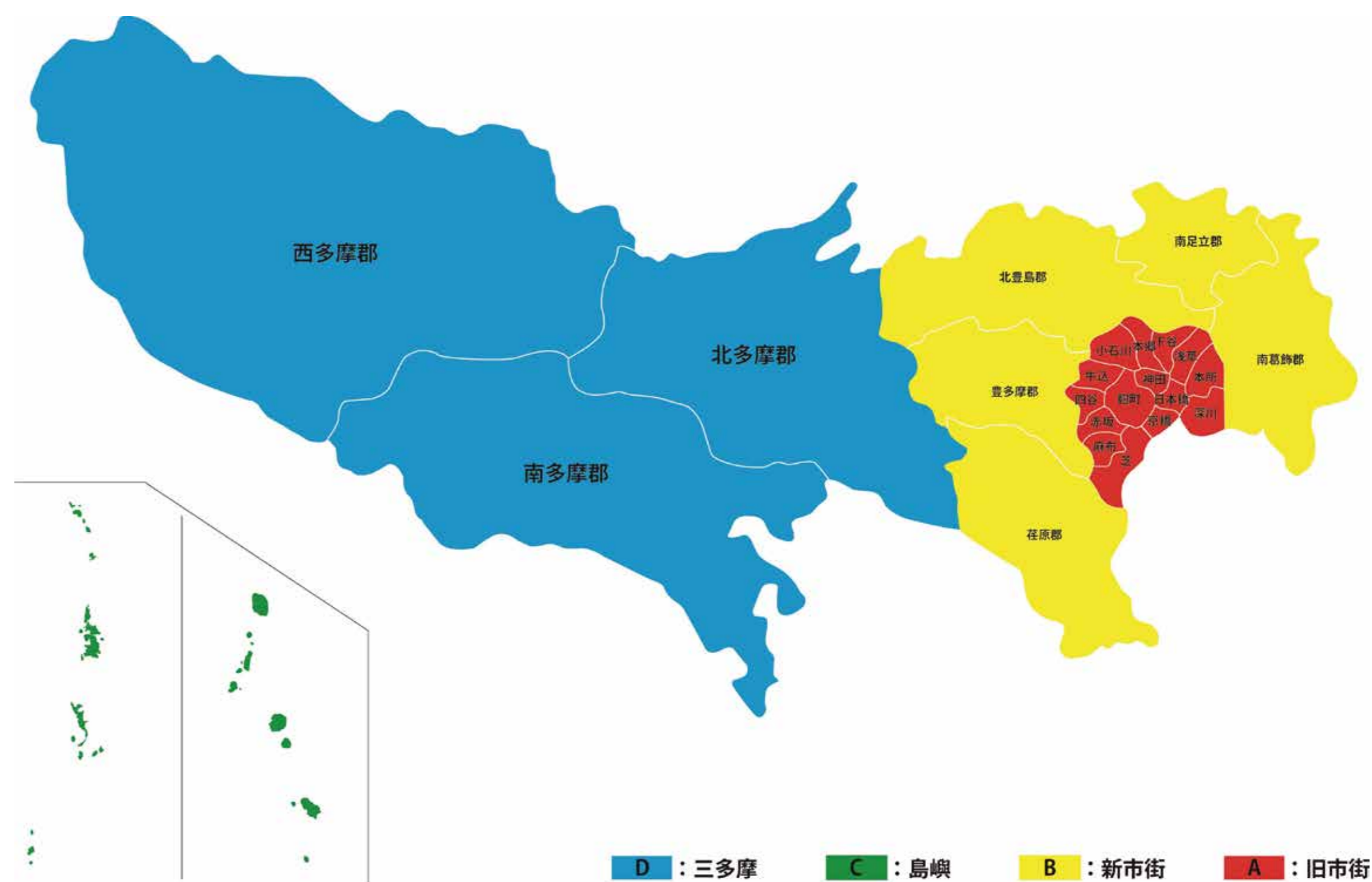
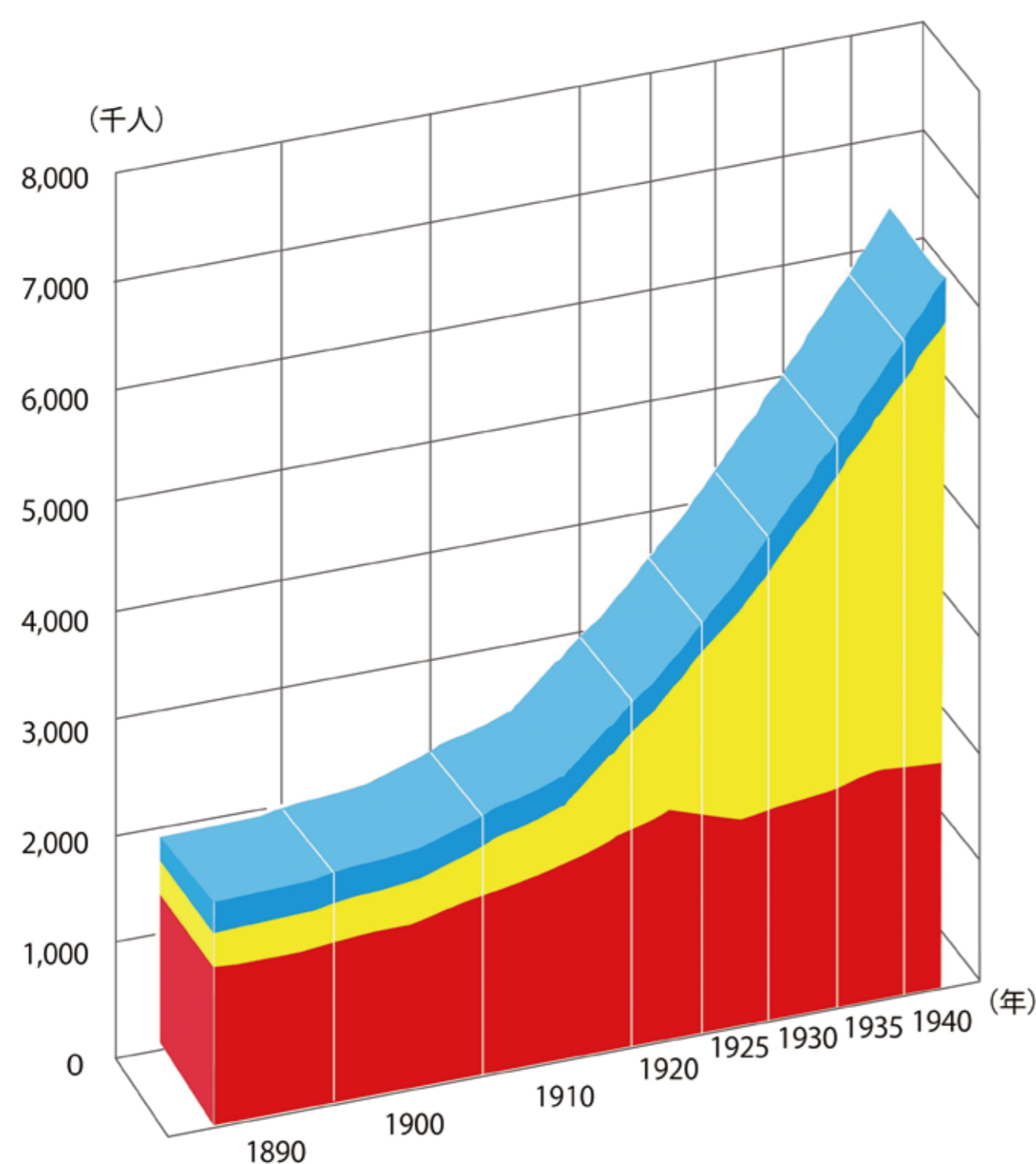
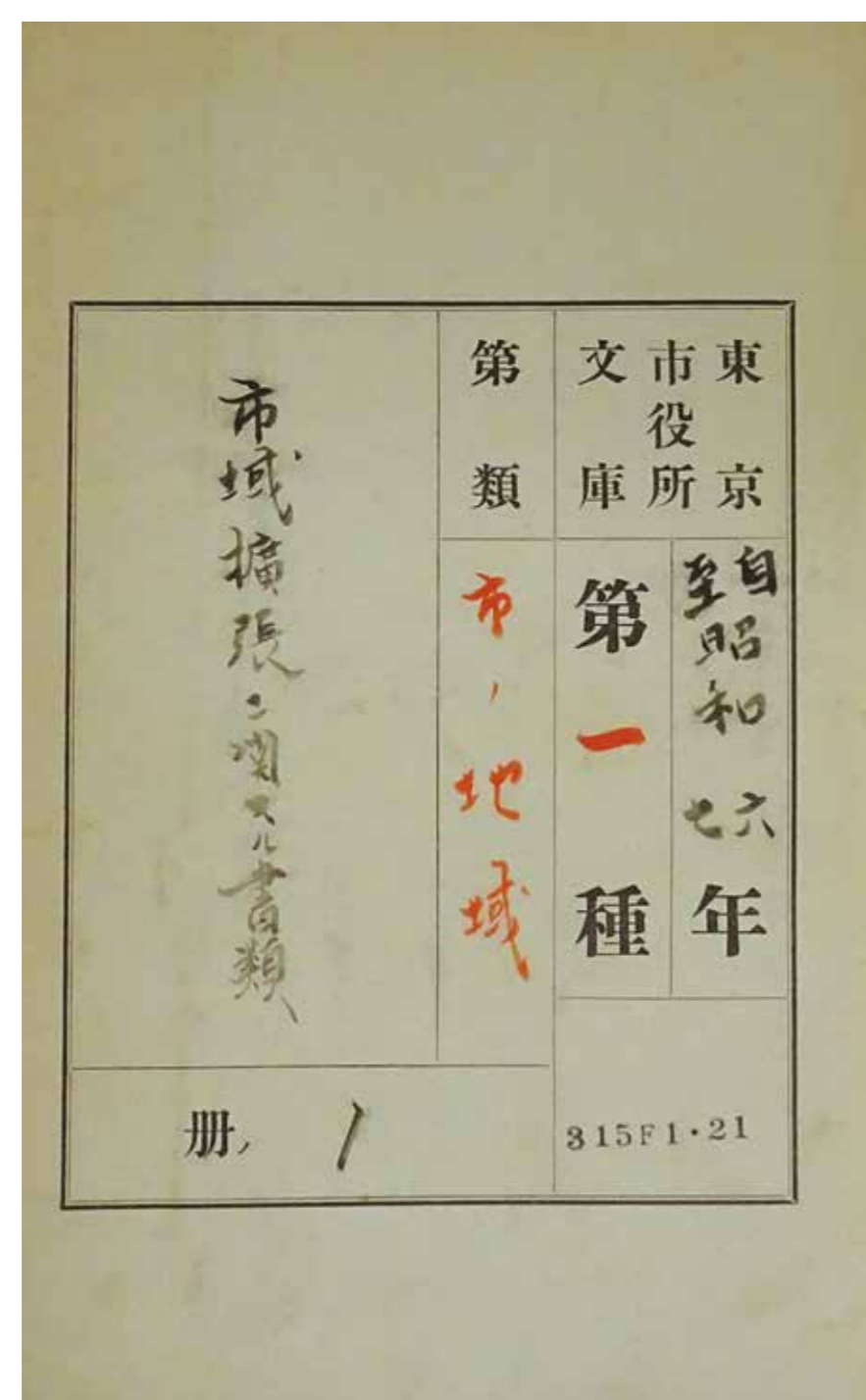


# 郊外の都市化と東京市域の拡張 — 大東京市35区の成立

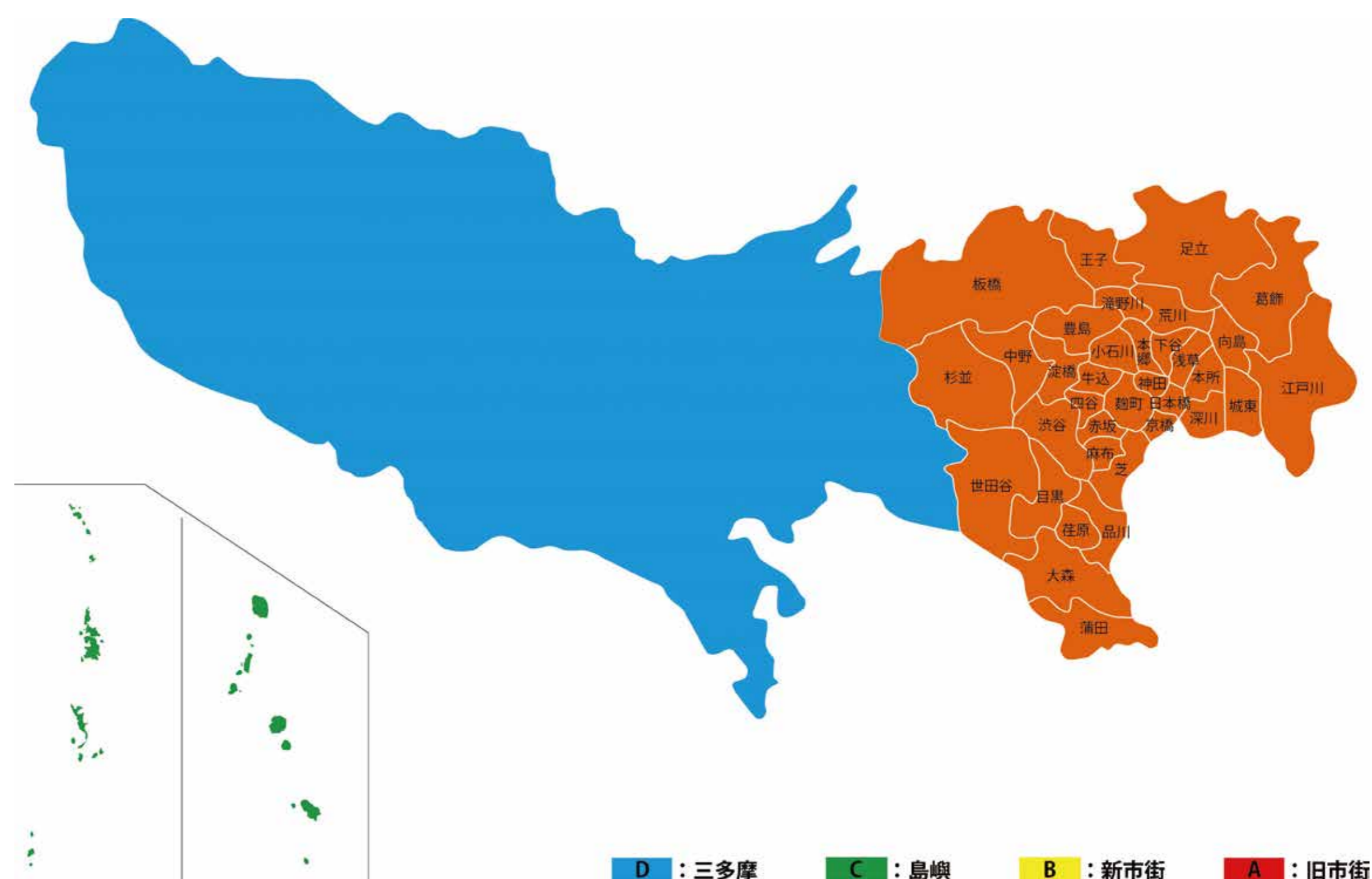
20世紀に入ると、鉄道の延伸、住宅地の開発が東京市15区の周辺郡部に及び、この地域の人口が増加を続けました。とりわけ関東大震災の後にはその傾向に拍車がかかり、この地域を加えた一体的な都市行政の必要が認識されていきました。こうして昭和7年(1932)、周辺5郡82町村を東京市に編入し、新たに20区が成立、それまでの15区と合わせて大東京市35区が設立したのです。



20世紀前半における東京の人口増加が旧周辺農村(黄色の部分)の市街化によるものだったことがわかる。



「市域拡張二関スル書類」



昭和7年に成立した東京市35区